

ノテーション

目次

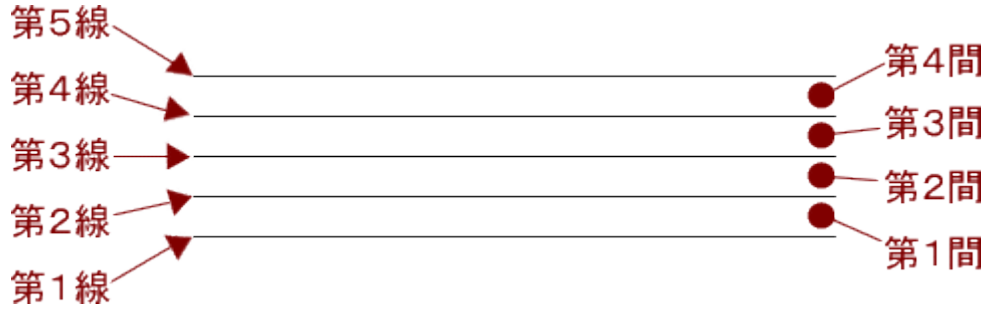
- 五線譜
- 音符
- 休符
- 拍子
- 音楽記号
- 音階



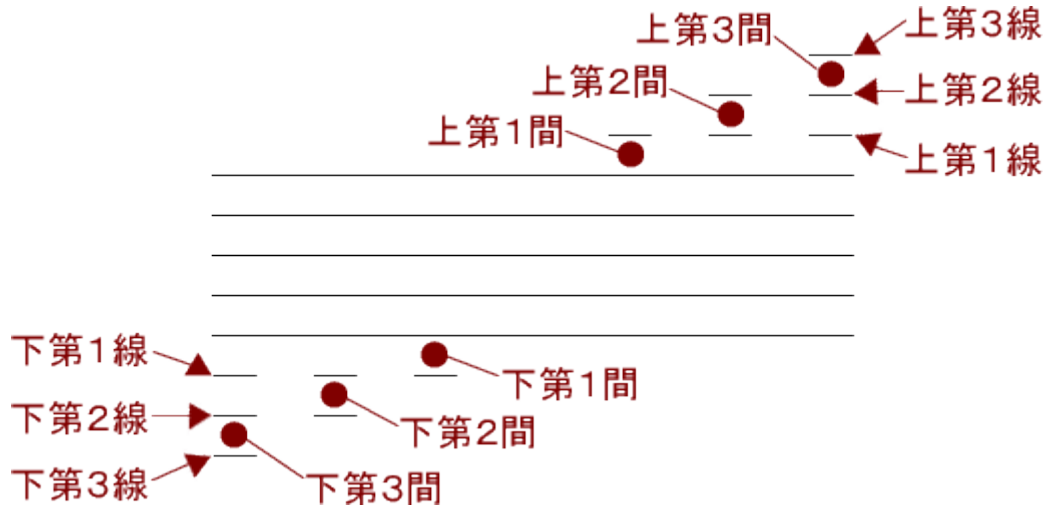
◆五線譜

・五線と加線

五線

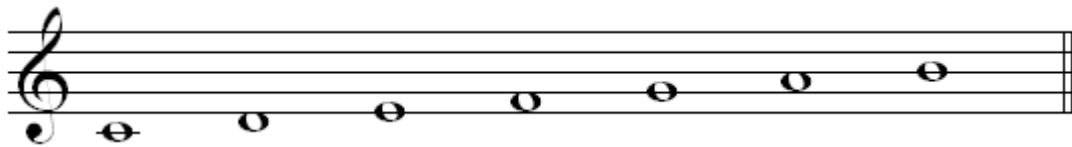


加線



・音名について

音名



左から順番にド・レ・ミ・ファ・ソ・ラ・シ

イタリア語	ド	レ	ミ	ファ	ソ	ラ	シ
英語	C	D	E	F	G	A	B
日本語	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	イ	ロ

・音部記号

五線譜には必ず一番左に音部記号（おんぶきごう）が表記されます。



ト音記号



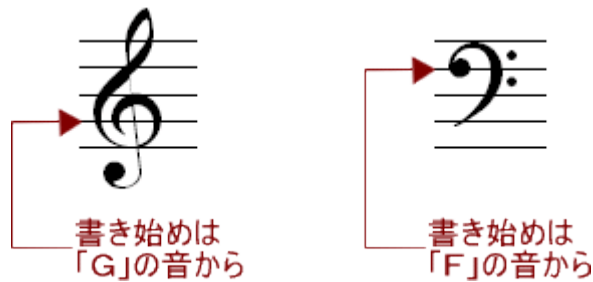
音部記号は楽器によって使い分けられ、ト音記号はギター、アルトサククス、ピアノの右手など高い音が鳴る楽器で使われます。高音部記号（こうおんぶきごう）とも言われます。

ヘ音記号



ヘ音記号は低い音が鳴る楽器で使われ、ベース、チェロ、ピアノの左手などで使われます。低音部記号（ていおんぶきごう）とも言われます。

音部記号の書き方

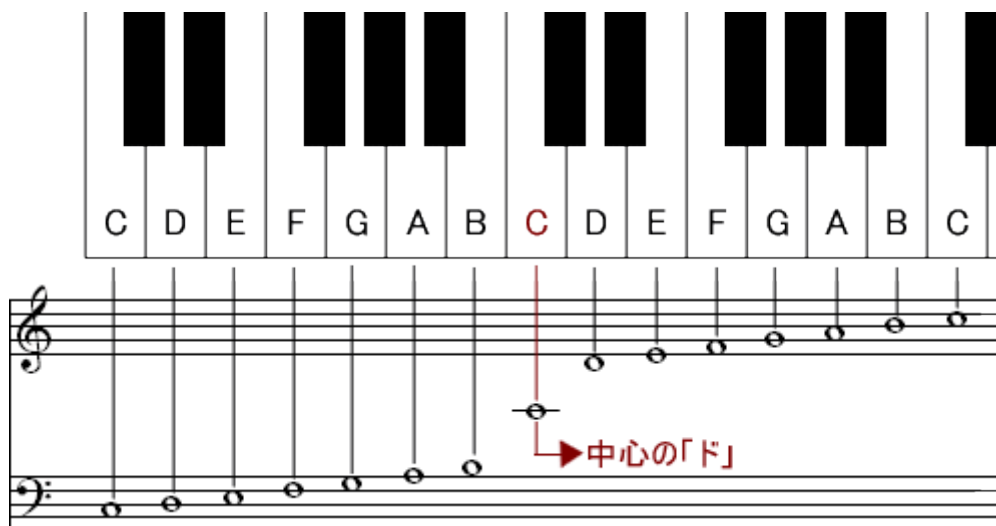


ト音記号は G の音（日本語音名ではト）から書き始めるのでト音記号と言います。ヘ音記号も F の音（日本語音名ではヘ）から書き始めるのでヘ音記号と言います。

音部記号が変われば同じ場所に書かれた音符でも音の高さは変わってきます。当然のことながら音名も変わります

・大譜表

ト音記号+ヘ音記号=大譜表

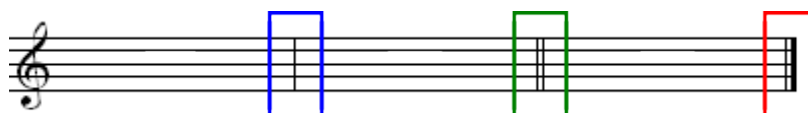


ト音記号とヘ音記号が連なった譜面を大譜表（だいふひょう）と言います。

ピアノなどの鍵盤楽器では音域が広範囲におよぶので、どちらか1つでは表せないことがあるからです。中心の「ド」の音は同じ音になります。

・小節線

小節線の役割



左の□の小節線から縦線（じゅうせん）と言って、1小節ずつを区切るたて線です。

真中の□、複縦線（ふくじゅうせん）と言って、ひと段落する時に使われます。

右側の□、終止線（しゅうしせん）と言って、曲の終わりに書かれます。

◆ 音符



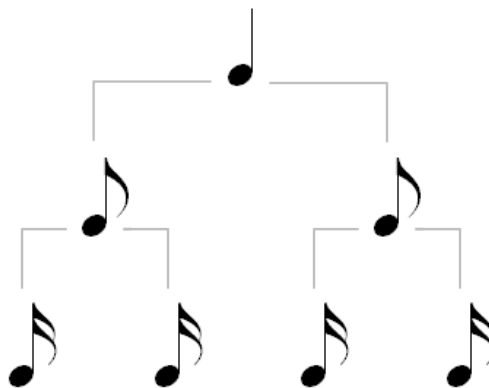
・ 音符の名前



・ 音符の長さ

2分音符は全音符の2分の1の長さ。4分音符は全音符の4分の1の長さで、2分音符の2分の1。2分音符が2つ、4分音符が4つで全音符1つ分になる。

8分音符は4分音符の2分の1の長さ。16分音符は4分音符の4分の1の長さで、8分音符の2分の1。8分音符が2つ、16分音符が4つで4分音符1つ分になる。



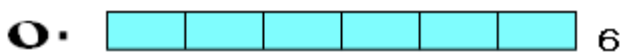
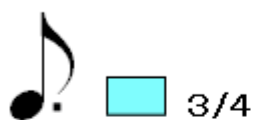
・付点音符



付点音符とは音符のすぐ右に小さな黒い点が付いている音符のことです。付点音符になると、その音符の半分の長さがプラスされます。付点全音符なら、全音符+ 2分音符になります。

付点全音符		付点2分音符	
付点4分音符		付点8分音符	

4分音符を1とした時のそれぞれの付点音符の長さです

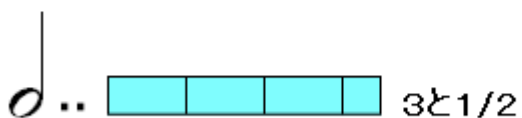


・複付点音符

複付点音符（ふくふてんおんぷ）とは、付点音符にもうひとつ黒い点がついた音符です。長さの変化はひとつ目に付いた点のさらに半分の長さがプラスされます。複付点全音符なら、全音符 + 2分音符 + 4分音符になります。

複付点全音符		複付点2分音符	
			
複付点4分音符		複付点8分音符	
			

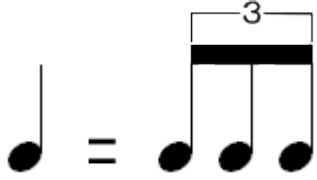
4分音符を1とした時のそれぞれの付点音符の長さです



・連譜

連符（れんぷ）とは、1つの音符を
3つや5つや7つなどに均等に分けることです。

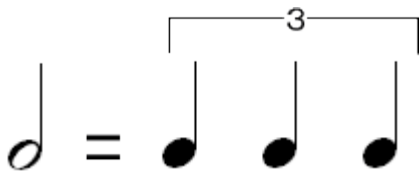
- ・1拍3連・・・4分音符を均等に3つに分けた音符。



4分音符が1つ鳴っている間に均等に3つ音を鳴らす。



- ・2拍3連・・・2分音符を均等に3つに分けた音符



2分音符が1つ鳴っている間に均等に3つ音を鳴らす。

・音符の書き方



「はた」の付いた同じ音符が連続していると、上段の譜面のように見づらくなってしまいます。そこで、下段のように音符をつなげて見やすくしてやります。

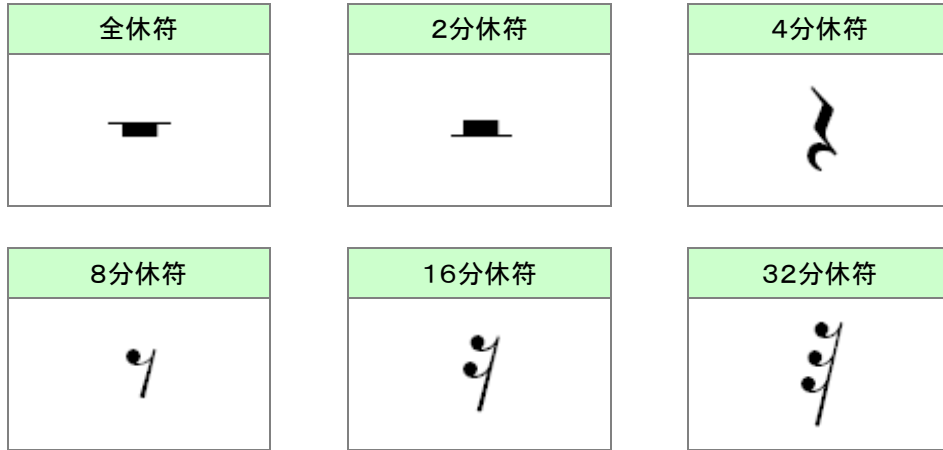


譜面を見ていると「ぼう」の向きが上向きの時と下向きの時があります。自分で譜面を書く時などにも迷ってしまうかもしれません。これにも一応きまりがあって、上の譜面のように赤線の第3線以上音が高くなれば「ぼう」は下向きになります。分かりやすい譜面になるようにしましょう。



◆休符

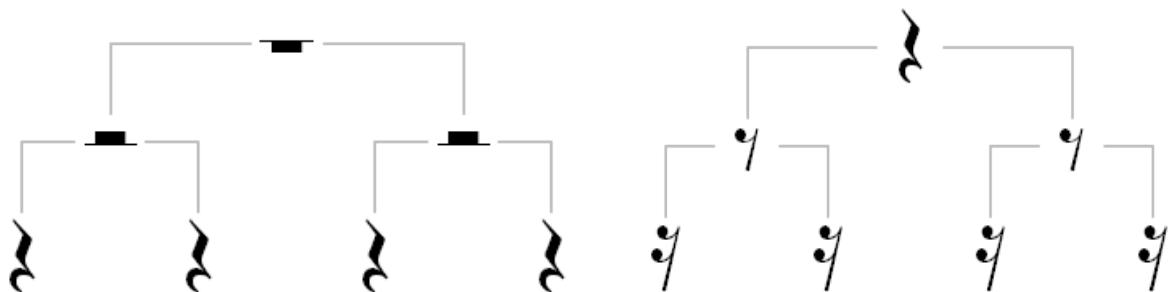
・休符の名前



・休符の書き方



・休符の長さ



休符の長さは音符の場合と全く同じ考え方です。

・付点休符と複付点休符

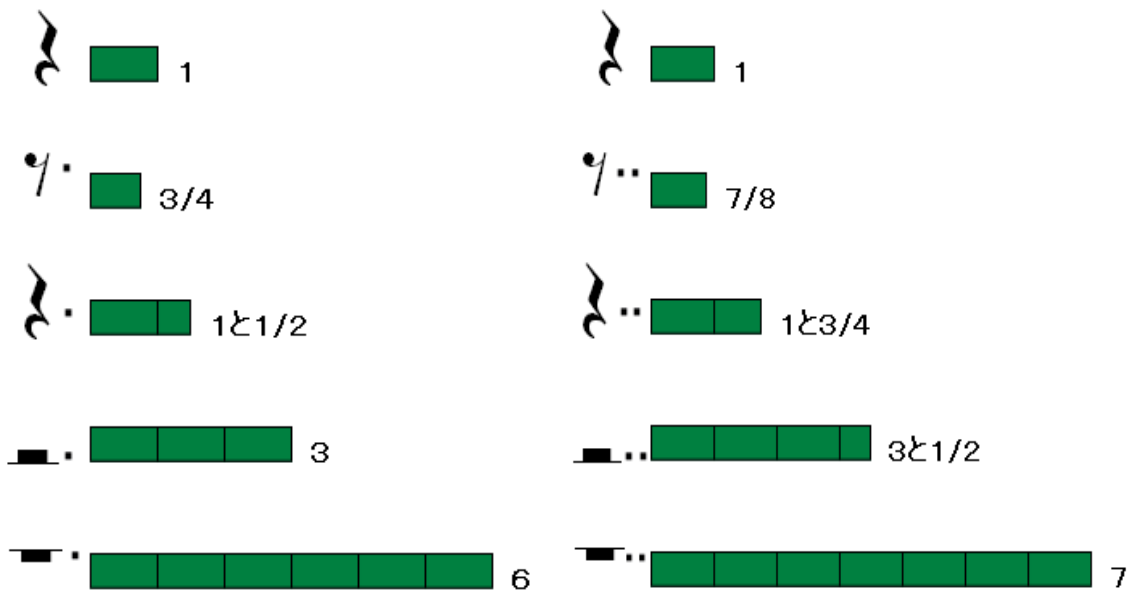
付点全休符		付点2分休符	
付点4分休符		付点8分休符	

複付点全休符	

複付点2分休符	

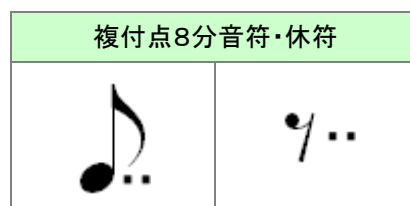
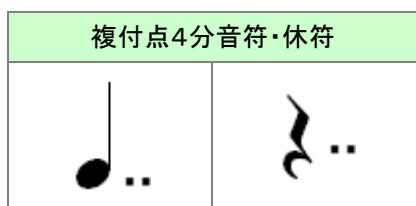
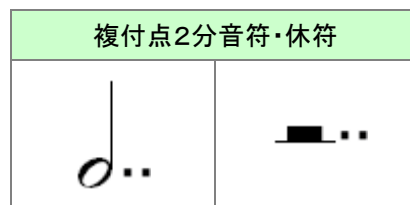
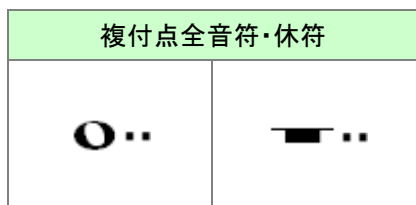
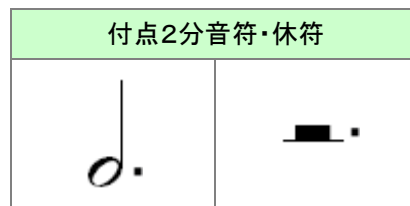
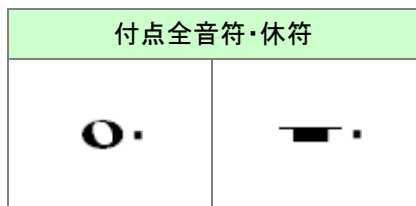
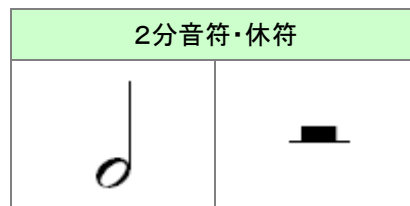
複付点4分休符	

複付点8分休符	



休符の長さは音符の場合と全く同じ考え方です。

・音符と休符のまとめ



◆拍子



・拍子記号の種類

各小節に入る音符の種類や数を決めているのが拍子記号（ひょうしきごう）です。



4分の4拍子・・・4分音符が4つ分で1小節。



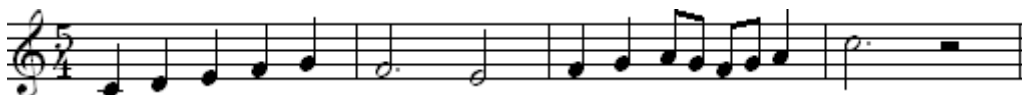
4分の3拍子・・・4分音符が3つ分で1小節。「ワルツ」とも言われる。



4分の2拍子・・・4分音符が2つ分で1小節。



4分の5拍子・・・4分音符が5つ分で1小節。



2分の2拍子・・・2分音符が2つ分で1小節。1拍が2分音符になる。リズムの感じ方は4分の4拍子と特に変わらない。マーチでよく使われる。



8分の6拍子・・・8分音符が6つ分で1小節。4分の3拍子を倍で感じる。



・音符と音符を結ぶ「タイ」



タイとは同じ高さの音符を結ぶ記号になります。結ばれた後の音符は音を鳴らさずに、前の音をそのまま続けて鳴らします。



4分音符が3つ分と同じ長さ

タイで結ばれた方の2分音符は音を打ちなおさず、4分音符の音をそのまま鳴らし続けます。2分音符は4分音符2つ分の長さなので、4分音符+2分音符で4分音符3つ分の長さになります。



2拍分ずつ書く

両方とも音符の長さは同じなのですが、書かれ方が違います。どちらかというとな下の譜面の方が見やすいと思います。この点線を「仮想小節線」といいます。



◆音の強弱

・オモテとウラ

1 と 2 と 3 と 4 と

オモテ ウラ オモテ ウラ オモテ ウラ オモテ ウラ

リズムにはオモテとウラがあり、音の強弱が生まれます。ウラはオモテに比べて少し弱く感じられます。

・シンコペーション

強 弱 強 弱 強 弱 弱 強 弱 弱

強 強 弱 強 弱 強 弱 弱

基本的にはオモテが強拍、ウラが弱拍です。この強拍と弱拍がタイによってずれることがあります。それをシンコペーションといいます。

◆音楽記号



●繰り返し記号

・リピート記号

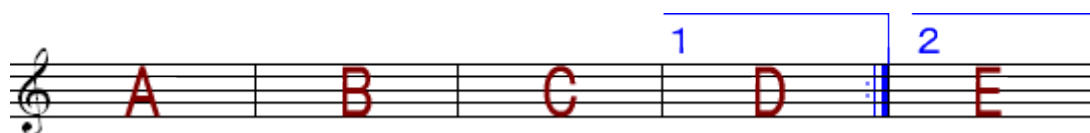


『A→B→C→D→A→B→C→D』になります。永遠に繰り返すのではなく、1度繰り返したら終わりになります。



『A→B→C→D→E→D→E』

・カッコのリピート記号



『A→B→C→D→A→B→C→E』



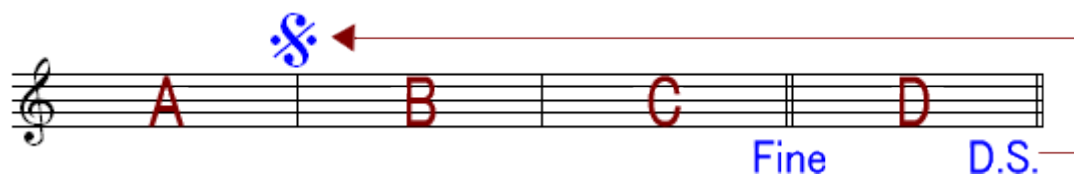
『A→B→C→D→B→C→E』

・D.C. (ダ・カーポ)



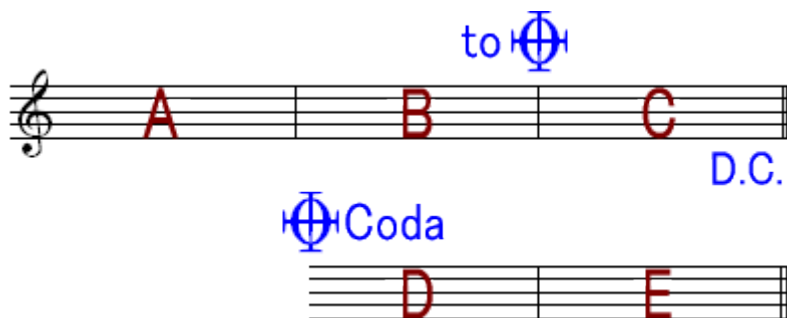
「曲の頭に戻りなさい」という意味。2小節目の終わりにある Fine (フィーネ) はここで演奏が終わりという意味です。1回目は通り過ぎて D.C.で戻ってきた2回目で演奏が終わります。なので、演奏の順番は『A→B→C→D→A→B』になります。

・D.S. (ダル・セーニョ)



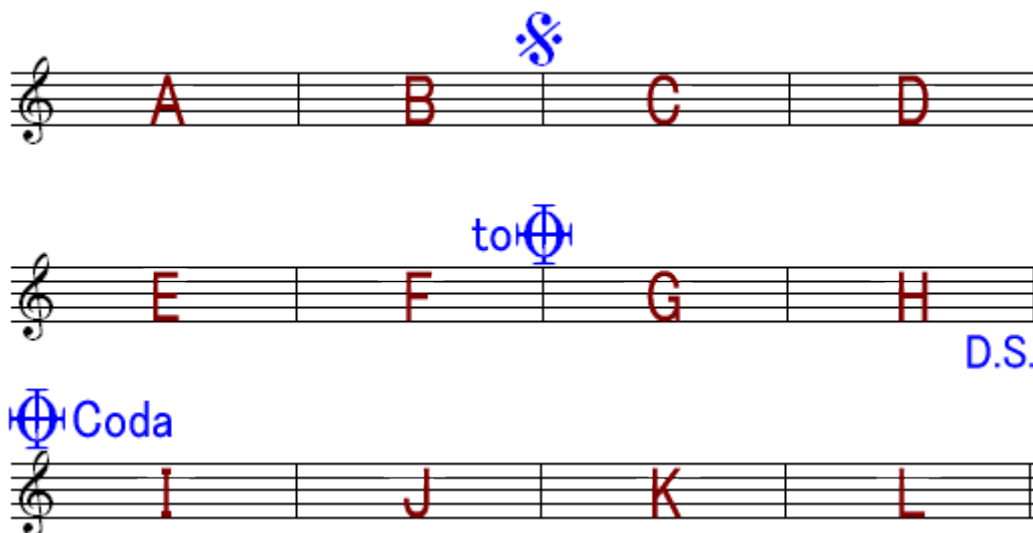
D.S.まで進んだらセーニョマークまで戻ります。『A→B→C→D→B→C』になります。

・Coda（コーダ）



1回目の to は通り過ぎて、D.C.で曲の最初に戻ったあと to から Coda へ飛びます。演奏の順番は『A→B→C→A→B→D→E』になります。

・リピート記号のまとめ



演奏順は『A→B→C→D→E →F→G→H→C→D→E →F→I→J→K→L』になります。

・小節の繰り返し

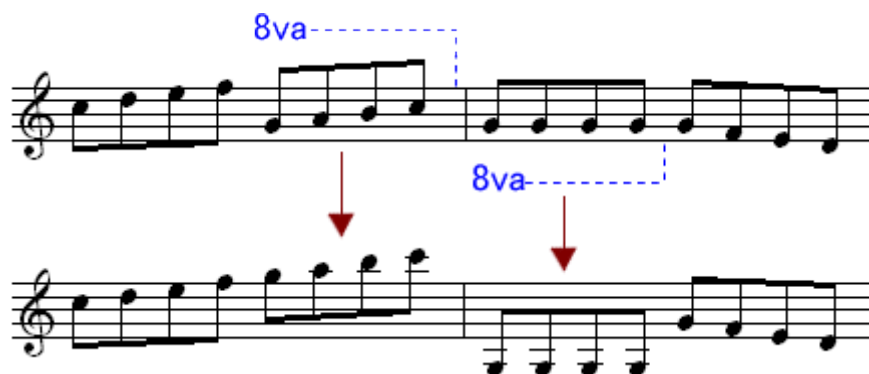


すぐ前の小節と同じことを弾くときに使う。

●演奏記号



・オクターブ記号…書かれている音符の1オクターブ上の音、または下の音を表す。



・スタッカート…音を短く切って演奏する。



・テヌート…音の長さを十分に伸ばす。



・フェルマータ…適当な長さに伸ばす。または、これで演奏は終わりという意味の終止記号としても使われます。どちらにせよ、譜面の最後にある記号です。



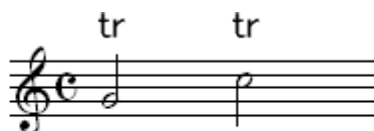
●装飾音



・前打音（ぜんだおん）・・・音符の前に小さな音符を付けた音。



・トリル・・・書かれている音符と、その1音上の音を交互に速く音を出す。



・アルペジオ・・・和音（コード）を1音ずつ鳴らす。



・ターン・・・元になる音符をとり合う音で取り囲んで演奏する。回音（かいおん）とも言う。



●強弱記号



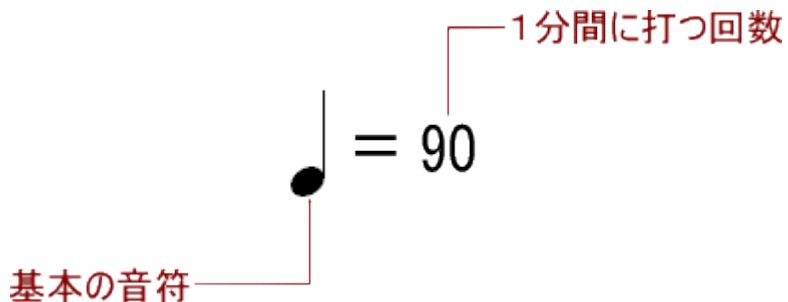
記号	読み	意味
ppp	ピアノッシッシモ	ものすごく弱く
pp	ピアノッシモ	すごく弱く
p	ピアノ	弱く
mp	メゾピアノ	やや弱く

記号	読み	意味
mf	メゾフォルテ	やや強く
f	フォルテ	強く
ff	フォルティッシモ	すごく強く
fff	フォルティッシッシモ	ものすごく強く

スフォルツァンド	スフォルツァード	フォルツァード	アクセント
sf	sfz	fz	> ^

記号	読み	意味
cresc.		クレッシェンド だんだん強く
decresc.		デクレッシェンド だんだん弱く

●速度記号



1分間に基本の音符が何回打つかを表す。上記は「1分間に4分音符が約90回打つ速度」。

記号	読み	意味
Grave	グラーベ	重々しく
Largo	ラルゴ	すごく遅く
Lento	レント	遅く
Adagio	アダージョ	ゆるやかに
Andante	アンダンテ	歩く速さで
Andantino	アンダンティノ	少し速めに
Moderato	モデラート	中くらいの速さで
Allegretto	アレグレット	やや速く
Allegro	アレグロ	速く
Vivace	ビバーチェ	快速に
Presto	プレスト	すごく速く

イタリア語を使った言葉による指示。

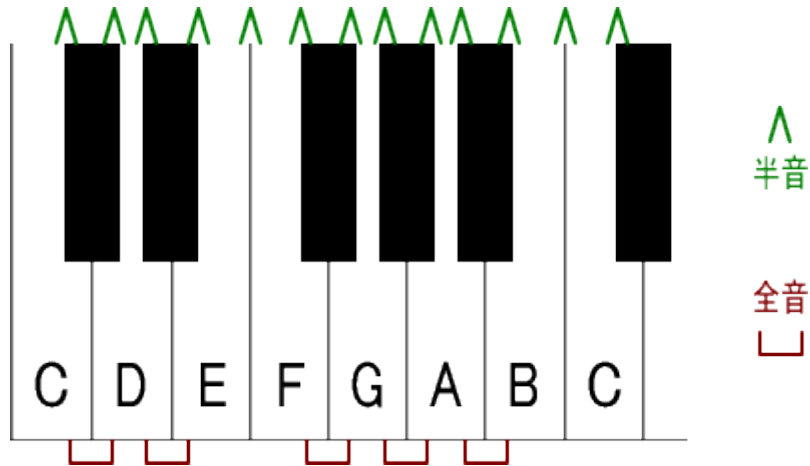
記号	読み	意味
accelerando (accel.)	アツチェレランド	だんだん速く
ritarando (rit.)	リタルダンド	だんだん遅く

曲中にテンポを変えたい時に使う記号。

◆音階



・全音と半音

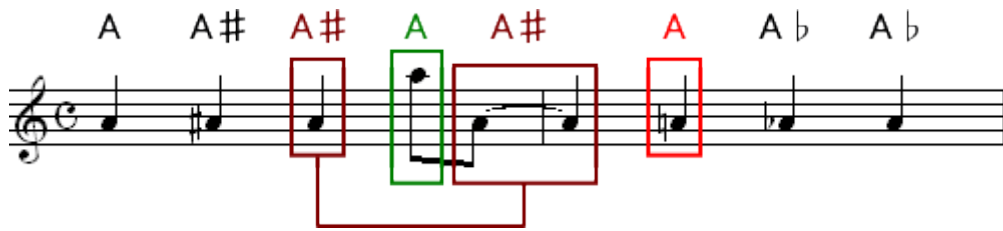


音階（おんかい）には全音（ぜんおん）と半音（はんおん）があります。例えば、ド・レ・ミ・ファ・ソ・ラ・シ・ドの音階にも全音と半音があります。上のピアノの鍵盤で、CとDの間が全音です。Cからその黒鍵までが半音になります。DとEの関係も全音になります。次のEとFも全音と思いきや、これは半音です。ピアノの鍵盤を見ると分かりますが、EとFの間には黒鍵がありません。なので半音になります。同じように、BとCの間にも黒鍵がないので半音になります。

・臨時記号

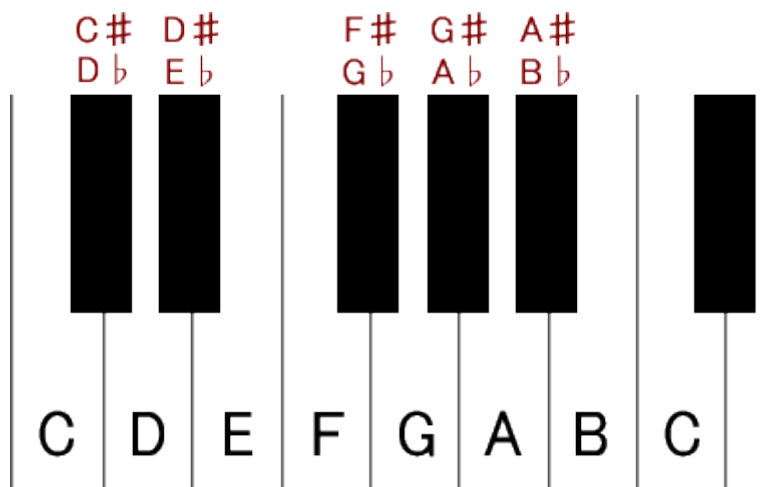
記号	読み	意味
♭	フラット	半音下げる
♯	シャープ	半音上げる
♮	ナチュラル	元の音にもどす
♭♭	ダブルフラット	全音下げる
♯♯	ダブルシャープ	全音上げる

音を半音下げたり、半音上げたりする記号を臨時記号（りんじきごう）と言います。



同じ小節内では1度シャープやフラットが付くと次からは省略されます。しかし、オクターブが違えばシャープやフラットは付かず、記入された音のままです。臨時記号の効果は1小節で終わりですが、次の小節にナチュラル記号がふってある譜面もあります。

・異名同音



Cを半音上げるとC#で、Dを半音下げるとDbになります。上のピアノの鍵盤を見てもらえば分かりますが、このC#とDbの音は同じ黒鍵にあります。このような違う表記のされかたで、同じ高さの音のことを異名同音（いみょうどうおん）と言います。